

「日本宗教者平和会議」に参加して

松本 満

去る10月22、23の両日、金沢市において、日本宗教者平和協議会（宗平協）主催の「09日本宗教者平和会議 in 金沢」が開かれ、参加してきました。

「宗平協」というのは、仏教・キリスト教・神道・天理教・新宗教などの宗教者が宗教、宗派の壁を超えて連帯し、平和と民主主義のために活動している全国組織（1962年結成）です。清水寺の故大西良慶貫主が長く理事長を務めていました。今は橋本左内（独立イエスキリスト教会牧師）さんです。

1日目はメインの講演のあと報告が3つ、夜には懇親会がありました。2日目は小松空港の航空自衛隊基地を見にいきました。参加者約60名で、私は初参加だったのですが、いろいろと知り合いもできて個人的にも有益な2日間でした。

まず、講演ですが、「イラク派兵違憲判決の意義と今後の課題」と題して、元「自衛隊イラク派兵差し止め訴訟の会」代表の池住義憲氏が話されました。私もこの判決が出たことは知っていましたが、その内容については全く知らず、講演を聞いて正直驚き、かつ感動しました。

池住氏は演技派で、訴訟を起こすまでのエピソード、考え抜いた裁判戦術、判決の日の緊迫した様子などを劇のように再現、判決文の画期的な内容についてもポイントを押さえた明快な説明で、聞く者を飽きさせませんで

した。（また、こちらにも招きたい方です。）

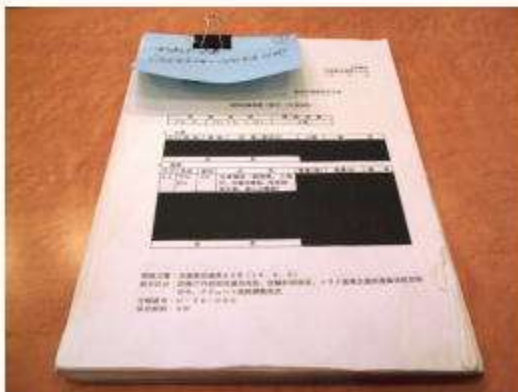
特に、名古屋高裁の青山邦夫裁判長による判決は、形の上では原告敗訴ですが、その判決文の内容は、「現憲法下で政府の行為が9条に違反するとして確定した最初のもの」であり、まさに池住氏の言われるとおり「学問の水準をも超えた」「歴史に残る画期的な」ものだということがよくわかりました。

（判決の中身については後日報告します。）

池住氏が講演のなかで示された資料の中に、イラクに派遣されていた航空自衛隊の活動に関する報告書（池住氏が情報公開請求して「開示」されたもの）がありました。以前は大半が黒塗りの開示で、空輸の実態は不明でした。政権交代後に開示されたものを見ると、「16. 3. 22 米陸軍×8、米空軍×7、小銃×4、弾倉箱×2」などと記載されています。「人道復興支援」とされていたものの実態は軍事後方支援に他ならなかったことがわかります。

次に「宗教者のたたかいの報告」として、3氏から報告がありました。

最初は「葛飾ピラ弾圧事件」の被告として裁判を闘っている荒川庸生師。当たり前の活動としてやっていたピラ配布中（マンションのポスト）に逮捕され、常識では起訴にならないところを起訴され、一審無罪、二審逆転有罪、最高裁に控訴中です。最高裁は弁論も開かず10月19日判決を通知してきていました。ところが、10月8日になって突然その判決日の取り消しを通告してきたといえます。最高裁に何が起こったの



品名	数量	重量
手荷物	1,000個	1,000g
手荷物	200個	200g
手荷物	200個	200g
合計	1,400個	1,400g

航空自衛隊のイラクでの活動に関する以前の「不開示」文書と政権交代後の開示文書

か不明ですが、何かが動いた可能性もあるということでした。

2番目は、「靖国合祀取り下げ訴訟」の原告西山誠一師でした。浄土真宗の信仰の立場、また人の命と平和を守り戦争を阻止する憲法9条の立場から、どんな思いで闘っているのか、切々と述べられました。

3番目は、若狭の小浜でずっと原発反対闘争を闘っている、真言宗明通寺住職の中島哲演氏です。氏は私自身の先輩にあたる方です。極めて保守的な地域で、在住の被爆者支援の運動を地を這うようにして続け、狡猾なやり方で住民を懐柔してくる関電や行政といかに対峙してきたのかを、かみしめるような口調で語られました。敦賀にある、かつてナトリウム漏れの事故を起こした高速増殖炉もんじゅを、来年運転再開しようと、今、国は画策中で、23日にも住民への説明会があるとのことでした。もんじゅは日本の核兵器保持能力を保証するものであり、その面からも軽視できないとの指摘でした。この方

もいつか講師として招くことができたらいいなと思いました。

23日は、航空自衛隊の小松基地を見学しました。

民間が借りる形で運用されているため、事ある時は自衛隊が優先、管制官もすべて自衛官だということでした。この日は訓練の出動が少なく、いつもの動きは見られませんでした。場合によるとアジア諸国攻撃基地にもなりうるこの基地の怖さを実感しました。



着陸直後のF 15 イーグル (23日)

宮城益雄さんの「入院記」から

木の皮のようにやせたが拳はまだ堅い
万物流転かくしてソクラテスは死んだ
疑えばわれ在り芦笛をふく確かさで

宮城由紀子さんの作品から

屹立する骨が精神を支えている 吾が夫よ
崩れた灰が白い あの精神を支えた骨
見開いたまま逝った 真実を見つめる大きな眼

春愁の机 パソコンが置き去り

気付けば爛漫の春 九条に守られて
爛漫の春を戦火の子どもに送りたい

同人のみなさんの作品から

丹後は雪だる二弦の土台の訃報来る
与謝に生きて蕪村の筆に一足した
かなしくてかなしくて 宮津ええとこ

山下裕康
山下裕康
伊藤哲英



俳句同人誌「二弦」第95号をいただきました。この1月に逝去された「九条の会」会員・宮城益雄さんの俳句と、奥様、また同人の俳句を了解を得て転載します。

街角の9条 高校生のみなさん!

11月9日朝、宮津高校前で登校する生徒のみなさんに「核廃絶を」と訴える九条の会びらを手渡しました。

自転車を止めて受け取ってくれる人もあり、うれしいことです。ちょっと高校生を知的に刺激したいとオバマ米大統領のプラハ演説を編集したビラ約200枚を撒くことができました。

写真は事務局のHさん。80歳を超えてもかくしゃくたるものです。見習わなくては。



福知山九条の会「秋のつどい」 ☎0773-22-2134

11月21日(土)14:00～中丹勤労者福祉会館

講演「民主党の政策と憲法九条」 山内敏弘龍谷大教授



福知山九条の会・宮本平一さんが呼びかけています。



憲法9条メッセージプロジェクトが左の2冊の新しいブックレットを出版しました。「誰の…」は安齋育郎さん・益川敏英さんが核や平和に関する質問に答えます。

「大恐慌…」は経済学者の二宮・本山・渡辺3氏の講演を収録。@ 300

連絡先：代表委員 吉田真理子 0772-46-5048 (兼FAX)
事務局長 市川 迪彦 0772-46-3599 (兼FAX)
090-1021-6423 (市川携帯)